

前線からみなさんへ③

～日本エコツーリズムセンター代表理事・広瀬敏通氏による

「RQ市民災害救援センター活動レポート」より抜粋～



RQ現地本部では先日より、登米の本部一本体制から、気仙沼市北部の唐桑半島にひとつ、石巻市北部の河北町にひとつのボランティアセンターがオープンしています。

ボランティアという見慣れぬものたちを受け入れてくれる土地柄でも風土でもありませんでしたが、自らも被災されたHさんの尽力で、唐桑のボランティアは無事に開設できました。Hさんの舞根集落は、32軒のなかで助かったのは4軒だけだったそうです。

一方、河北町ではすでに津波の泥を被った集落の片付け作業をひと月にわたって行って



4月7日の余震で停電したRQ本部

きた「くりこま高原自然学校」のTさん率いるRQチームの実績によって、二つの地区長がアチコチ動いてくれ、先に使用させていただいていた福地区生活改善センターに加え、千照寺と横川公民館をお借りすることができました。

私を案内してくれた民生委員さんは、目の中に入れても痛くないふたりのお孫さんを津波で流され、悲嘆の底にあつたにもかかわらず、淡々と「ボランティアが活躍してくれる場所を作るのが自分の役目」と言ってくれました。

寺と公民館が決まった時の、ホツとしたような笑顔が忘れられません。東北人の強靭な忍耐力と献身を見た思いです。

これから河北では、民家や中学校の片付けに百人規模のボランティアが必要になってきますが、これで70～80人の宿泊が確保できました。

三陸から北関東に及ぶ、五百kmの沿岸地域の広大な大地と辺縁部の低山には、おびただしい瓦礫、破片などが散乱し、林も田も畑も手をつけ

ることができません。

これを重機で片付けるのは無理なので、人力で片付けるしかありません。片付けという仕事はか細い希望への唯一の道であり、それは被災地の再生に連なる道です。これをやることのできるのはボランティアしかいません。

まるで『木を植える男』のような気の長い話ですが、みんなやりましょう。みなさんの参加をお待ちしています！

ニュース5910

「暖助」登場！

廃プロパンガスボンベを使って作られた被災地向け薪ストーブ「暖助」が、いま気仙沼や石巻で大ブレイク中！

横の長さが1.2mもあるので、大きめの廃材でも燃やせ、お風呂のお湯も沸かせます。上部は平らな鉄板で、調理も可能。製作した小諸の「ジオ・パラダイス」では、「3月16日から開発に取りかかり、20日に完成した。行政には、『ライフラインが整ってきたからいらぬ』と言われたが、被災者に少しでも暖をとって欲しかった」と、多くの反響を喜んでます。

8日には現地RQにも届けられたとのこと。活躍が楽しみ！！



*「今週の三洋云」は、誌面の都合により次週まとめて掲載いたします。

毎日更新！日本エコツーリズムセンターホームページで広瀬理事の活動レポートがまるごと読めます。
(<http://www.ecotourism-center.jp>)



4月11日(月)

黒糖の発送もお休みいたします



エコセンより以下のようなお知らせがありました。
「これまでたくさんの物資をご提供いただきましたが、4/8から一週間程度の予定で、物資の受け入れを中止いたします。膨大な物資の整理が必要になったことと、現地でのニーズが大きく変わってきたため、提供物資を無駄に余らせないための措置です。物資提供の再開は、追ってお知らせいたします」

週刊

東北に黒糖を送ろう！大作戦

しんぶん

毎週火曜日発行予定

募金箱設置場所(4月11日17時現在・順不同)..
 [東部地区] ラ・ティーダ西表 字南風見 大原港ターミナル(竹富町観光協会、八重山観光フェリー) 大富売店 [西部地区] スーパー川満 西部歯科診療所 santa nu neene カフェなかゆくい ダイビングチームうなりざき 民宿パイン館 民宿あけぼの館 民宿母家 マリンロッジアトク キッチン inaba 西表島エコツーリズム協会 紅露工房 浦内川観光 イルンティ フタテムラ 星砂スーパー 金城旅館 [波照間]